

神の驚くべき創造

■自然界とすべての被造物を見渡すならば、すべてを創られたお方の偉大さを知ることができます。このような驚くべき秩序や目覚ましい美しさは、宇宙的偶然やビッグバンのような無秩序な爆発からは生まれてきません。このような仮説を信じる方がもっと多くの信仰を必要とするのです。それよりは、へりくだって聖書に書いてある通りの神を信じるべきです。神のみことばは、神がどのようなお方であり、なぜそのようなお方であるのかを説明しています。（詩篇8篇一表紙に記載）

人間は楽器として神に設計された

■みことばを更に詳しく見ていくならば、神が人を創られた時、神は私たちと交わるために、そしてご自分の家族の一員とするために私たちを創られたことを知ります。私たちは自分たちを見る時に、自分たちがとてもユニークな楽器を組込まれた者として神に創られていることを発見します。なぜでしょうか？（エペソ1：3～6）によりますと、人間は神の恵みの栄光がほめたたえられるために創られたからです。私たち自身が神への絶え間のない賛美と礼拝となるべく召されているのです。私たちは、唯一賛美されるにふさわしいお方への賛美のいけにえをささげるのです。

ご存知のように、各国にはそれぞれの音楽的表現と独自の楽器がありますが、ほとんどの楽器は三種類の基本的な楽器に分けることができます。これらが組み合わさって、すばらしい音楽の音色（Sound of Music）を奏でるのです。世界中どこに行っても見出すことのできる三つの基本的な楽器とは、弦楽器、管楽器、そして、打楽器です。驚くべきことに、この三つの楽器を人間の体の中に見ることができます。①私たちののどの中には声帯があり、歌う時にこれが振動し声となります。②私たちにはバグパイプのように機能する肺があるので、口笛を吹いたり、トランペットやホルンのような音を出すことができます。③さらに私たちには、打楽器のように機能する舌、手、足があることにより、口でビートを生み出したり、手拍子を取ったり、足を打ち鳴らすことができます。これら三つの基本的な楽器すべてが私たちの体の中に組み込まれているのです。私たちは自分たちが神にどれほど不思議に創られているかを知らずにこれらの楽器を使うことがあるのです。

「それはあなたが私の内臓を造り、母の胎のうちで私を組み立てられたからです。私は感謝します。あなたは私に、奇しいことをなさって恐ろしいほどです。私のたましいは、それをよく知っています。私がひそかに造られ、地の深い所で仕組みられたとき、私の骨組みはあなたに隠れてはいませんでした。あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書きしるされました。私のために作られた日々が、しかも、その一日もないうちに。神よ。あなたの御思いを知るのはなんとむずかしいことでしょう。その総計は、なんと多いことでしょう。それを数えよ



CFNJ聖書学院理事長
ロドルフォ・ガルサ師

うとしても、それは砂よりも数多いのです。私が目ざめるとき、私はなおも、あなたとともにいます。」（詩篇139：13-18）

■神は私たちをとて精巧な楽器として創りましたが、それはすべて神への賛美と礼拝のためなのです。私たちの話す言語というのも音楽的であり、文化によっては、イントネーションや音の違いによって、言葉の意味以上の意味を表現していることもあるのです。

「その後、私は見た。見よ。あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、だれにも数えきれぬほどの大ぜいの群衆が、白い衣を着、しゅろの枝を手に持って、御座と小羊との前に立っていた。彼らは、大声で叫んで言った。「救いは、御座にある私たちの神にあり、小羊にある。」御使いたちはみな、御座と長老たちと四つの生き物との回りに立っていたが、彼らも御座の前にひれ伏し、神を拝して、言った。「アーメン。賛美と栄光と知恵と感謝と誉れと力と勢いが、永遠に私たちの神にあるように。アーメン。」（黙示録7：9-12）

聖霊が賛美と礼拝を助けてくださる

■このように神は私たちをすばらしく設計してくださっていますが、神の目的を達成するためには一つの条件があります。それは、神を霊とまことをもって礼拝することを可能にくださる聖霊を持つということです。

「しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。」（ヨハネ4：23）イエス様を主、また、救い主として受け入れないならば、私たちは永遠の目的に関係のない、むなしい音しか生み出せません。

■聖書は、心を尽くして神を礼拝するよにと教えています。聖霊は、私たちの存在の中心に住むことを熱望しています。私たちがすべての罪を悔い改めて、イエス様を主、また、救い主

として受け入れるならば、聖霊が私たちのうちに来てくださり、私たちは聖霊に満たされる準備ができます。聖霊は私たちを助けて、みこころのままに私たちを主への礼拝へと導いて下さいます。「神の御霊に導かれる人は、だれでも神の子どもです。」（ローマ8：14）

■聖書には、ペンテコステの日に、ご自分を信じる者に与えたとイエス様が約束した聖霊（使徒1：8）を熱心に求めた者たちの上に、突然聖霊が来て彼らを満たしたと記されています。ペンテコステの祝いに参加するために多くの国の人々がエルサレムに来ていましたが、彼らはその時、それぞれ自分の国の言葉で弟子たちが話すのを聞きました。弟子たちは、神の不思議なみわざや、神の偉大さを宣言しました。聖霊がこのことを可能にしたので、弟子たちは、様々な国の言葉で神を賛美し礼拝したのです。（使徒2：1-11）

■神は、ご自分を霊とまことをもって礼拝する者を探し求めておられます。神は実に、ご自分の創造すべてを通してこの事が起こることを意図したのです。詩篇150篇にあるように、すべてのものが神を礼拝すべきなのです。「息のあるものはみな、主をほめたたえよ！」神が私たちの礼拝を必要としているわけではないのですが、主を礼拝することによって、私たちは主の油注ぎと祝福を受けるのです。

聖書に見られる賛美礼拝の力

■聖書には神への賛美礼拝が神のご介入や祝福を、賛美する者たちにいかにもたらすかという例がたくさんあります。ヨシャパテの困難な時代に、イスラエルは主に向かって歌い、イスラエルに攻めて来ていた三つの敵の軍隊すべては打ち負かされました。（II歴代誌 20 章）

■賛美の力は捕われ人を解放し、圧迫の下にある人々を解放します。ダビデが自分の立琴をサウル王のために奏でた時もこのことが起こり、悪霊はサウルから離れていきました。（Iサムエル 16:14-23 詩篇 32:7）

■使徒行伝の中に驚くべき話があります。初代教会のパウロとシラスは福音のために囚人として牢獄に入れられ縛られていました。鞭打たれ傷ついていましたが、そのつらい時でさえ彼らは主を賛美することを決めました。彼らが賛美を歌い、囚人達が聞き入っていた時、突然、主は大地震を起こされ、すべての囚人の鎖が解け、とびらが全部開きました。すべての囚人が解放されたのです！（使徒 16:11-26）

■私たちが神を賛美し礼拝する時、聖霊が捕われ人を解放しようとするところで霊的戦いが始まります。だからこそ私達は霊とまことによって神を賛美することが非常に重要なのです。ご自身の民に神は応えてくださるということ信じなければなりません。

■賛美礼拝は教会の集まりの時だけに限られるべきものではなく、私たちの人生そのものが継続的な賛美礼拝であるべきことをよく考えなければなりません。状況は関係ありません。鳥が毎朝さえずるように私たちも日々主を賛美すべきなのです。このような生き方は、私達が超自然的な領域にあるものを見たり、超自然的な領域で行動する事を可能にします。

日本で賛美と礼拝が増え広がる

■日本は歌うことを愛し、音楽を愛する国です。自分自身を表現したり、深い意味をともなったすばらしい音楽を作り出すような賜物が与えられている人がたくさんいます。しかし、そのすべてはどこへ向かっているのでしょうか？誰に向けられているのでしょうか？日本の人々はそれによって永遠の祝福を受け取っているのでしょうか。私達は音楽の永遠の意味を見つける必要があります。その最終的な答えとは、神によって計画されたものであり、神のうちにあり、神に向かっているということです。

■CFNJ聖書学院は日本で新しい世代の礼拝者を訓練する召しがあります。今日、日本で新しい世代が立ち上がり、さらに聖霊の力強いほどばしりに満たされていっています。新鮮な油注ぎがこの国に来ており、多くのクリスチャン・シンガーやミュージシャンが聖霊の流れに乗っています！より多くの人々がどのようにして満たされるのか、又、いかにして唯一の生ける神を礼拝するかを学ぶことを待ち望んでいます。

CFNJ聖書学院は創立当時から、賛美礼拝の油注ぎを神から与えられています。今までの年月を通して、私たちは学生達の生活が日々の賛美礼拝の力によって変えられていくのを見てきました。また、日本各地や世界の国々において、卒業生達からその油注ぎが流れ広がっていくのを見てきました。CFNJ聖書学院は霊とまことによって神を礼拝することを求めているすべての人々に門を開いています。私たちと共に王の王、主の主イエス・キリストをほめたたえ、たくさんの人々、町々、国々の歴史を変えていきましょう！■